

箱根神社

神奈川県足柄下郡箱根町

箱根神社は、古来より箱根権現の名で親しまれてきた。箱根権現は天平宝字元（757）年、萬巻上人によって創建された。当初から神仏混淆で箱根権現と称していた。権現とは「権に種々の姿になって現れる」という意味で、当時、神は仏が衆生を救うために仮に現れた姿だと考えられていた。従って、箱根権現も金剛王院東福寺という寺の住職が別当として管理をしていた。

親鸞聖人が、箱根権現でもてなしを受けるという『本願寺聖人伝絵』の話については、従来、多くの学者が疑いの目を向けてきている。だが、近年、箱根権現と聖人を結びつける一つの鍵が見つけられた。聖人が、終生尊敬して止まなかった聖覚という法然上人の優れた弟子が、箱根権現の支配を委されていたことが明らかになり、聖人が箱根権現で歓迎を受けられたのは、聖覚との縁によるものだった



箱根神社

た可能性が考えられるようになってきた。その鍵は、平松令三著『親鸞聖人絵伝』（本願寺出版社刊）に記されている。（略）

箱根権現は、明治元年廃仏毀釈の嵐が吹き荒れ、金剛王院東福寺は廃寺となり、仏教系の建物はすべて焼き払われて、仏像、財宝の類は打ち壊されて、なかには芦ノ湖に投げ込まれ、貴重な仏像、法宝物のほとんどが失われたと伝えられている。

箱根権現は、明治政府の神仏分離令によって、明治2年、権現の神号を廃して箱根神社と改称し現在に至る。